

✠015 JJとSDG

クリスチャンであったヨハン・セバスチャン・バッハは、宗教曲の清書自筆譜の冒頭に「JJ」（羅：Jesu juva! イエス・ユバー＝イエスよ、助けたまえ）と書き、最後に「SDG」（羅：Soli Deo Gloria! ソリ・デオ・グロリヤ＝ただ神のみに栄光を）と書き込むことを常としていました。

「JJ」は、「イエスが助けて下さる」という信仰の祈り、「SDG」とはラテン語で、「ただ神に栄光がありますように」という賛美の祈りです。



ソリ・デオ・グロリア（ただ神にのみ栄光、ラテン語：Soli Deo gloria）とは、プロテスタント宗教改革で、基本的な信仰をあらわすために提示された**五つのソラ**（five solas ※1）の一つである。それは神にのみ栄光というラテン語の語である。

この強調は、当時のカトリック教会の教えと対照的だったと言われる。

※1：**五つのソラ**：プロテスタント宗教改革と改革神学者たちの神学を要約したラテン語の語句。

①**聖書のみ**：ソラ・スクリプトゥラ（Sola scriptura）

ルターは「シュマルカルデン信条」において「神のことばが、教会の教えと信仰告白を確立する。それは天使であっても覆すことができない」と、主張した。ルターは、教皇も教会会議も最終的な権威ではなく、教会におけるすべての権威の上に聖書権威を置き、聖書の権威に服すべきであると主張したのである。そして、カルヴァンはルター以上に協調した。これに対して、カトリックでは聖書が神のことばであることを認めつつも、聖書が唯一の権威であることには同意しなかった。



②**恵みのみ**：ソラ・グラティア（Sola gratia）

「恵みのみ」の原則は、カトリック教会によって、激しく攻撃された。なぜなら、それは倫理を破壊して無秩序と混乱を生む考えであるという理由であった。

③**信仰のみ**：ソラ・フィデ（Sola fide）＝信仰義認

ルターは九月訳聖書とも呼ばれる『ドイツ語新約聖書』の「ローマ人への手紙」3章28節の訳語に「のみ」を付け加え、「信仰のみによる」と訳した。これが、ルターの宗教改革の中心的教理である信仰義認のテーマになった。

④**キリストのみ**：ソルス・クリストゥス（Solus Christus）

ルターは義認において、救いの確信は人の内側にあるのではなく、キリストのみにあると説いた。

⑤**神の栄光のみ**：ソリ・デオ・グロリア（Soli Deo gloria）